

○医療機器・医療 ICT 製品・ウェルネス機器市場動向調査

◆調査概要

本調査では、医療機器、医療 ICT 製品、ウェルネス機器で注目される 11 品目について、2013 年から 2019 年までの世界市場における中長期の市場予測を実施した。その対象 11 品目は以下の通りである。

【調査対象 11 品目】

- ① 画像診断装置 (CT、X 線検査装置、MRI)
- ② 内視鏡 (軟性鏡システム、硬性鏡システム、カプセル内視鏡)
- ③ 放射線がん治療装置 (陽子線、重粒子線、中性子)
- ④ 眼底カメラ
- ⑤ ネブライザー
- ⑥ パルスオキシメーター
- ⑦ 血糖値センサー
- ⑧ AED
- ⑨ CPAP 装置
- ⑩ 介護ロボット (移乗介助/移動支援、入浴支援、排泄支援)
- ⑪ ウェアラブルヘルスマニター

【調査対象期間】

2013 年 (実績)、2014 年 (見込み)、2015 年～2019 年 (予測)

【調査対象エリア】

世界市場 (アメリカ、EMEA、日本、中国、その他)

◆調査結果

① 画像診断装置 (CT、X 線検査装置、MRI)

【市場規模】 2013 年: 6.9 万台、2019 年: 8.9 万台 (2013～2019 年 CAGR: 4.3%)

需要の中心であるアメリカ、欧州、日本では一定の普及を示しており、今後これら先進国における大幅な需要拡大は期待できない。今後の市場拡大が見込まれるのは中国やインドといった新興国であるが、新興国での市場拡大には医療現場における医師やスタッフの医療スキルの向上が必要であり、現在は医療現場におけるスキル向上が図られている段階である。

② 内視鏡 (軟性鏡システム、硬性鏡システム、カプセル内視鏡)

【市場規模】 軟性/硬性鏡システム 2013 年: 4.0 万台、2019 年: 6.8 万台 (CAGR: 9.2%)

カプセル内視鏡 2013 年:28.6 万台、2019 年:39.0 万台(CAGR:5.4%)

軟性内視鏡システムは、先進国で一定の普及を果たしており、リプレース需要が中心となっている。一方、硬性内視鏡システムは低侵襲による内視鏡手術が増加しており、これを背景に今後の内視鏡市場を牽引する形で増加していく。

カプセル内視鏡は非侵襲の内視鏡システムとして注目されているが、現状は診察部位が限られており、今後は医療認可の国を増加させながら徐々に市場を拡大させていく。なお、本調査では軟性鏡/硬性鏡をシステム台数でカウントしているが、カプセル内視鏡はカプセル個数でカウントしている。

③ 放射線がん治療装置(陽子線、重粒子線、中性子)

【市場規模】 2013 年:3 台、2019 年:17 台(CAGR:33.5%)

陽子線や重粒子線、中性子を利用した放射線がん治療装置は、非常に大型かつ高額な製品であり、稼働施設は世界でも数 10 施設となっている。このため、非常に限られたシステム数となっている。ただし、今後は中性子治療装置の小型化、低被爆化などにより病院内での設置が容易となっていくことから、新たながん治療装置として市場は増加していく。

④ 眼底カメラ

【市場規模】 2013 年:0.8 万台、2019 年:1.0 万台(CAGR:5.2%)

眼科診察用としては一定の普及を示しているものの、予防、健診用途で需要が拡大している。ただし、予防/健診市場の普及が進むとともに、今後は徐々に頭打ち傾向が強まっていく。

⑤ ネブライザー

【市場規模】 2013 年:506.2 万台、2019 年:770.9 万台(CAGR:7.3%)

現在の需要の中心はアメリカや欧州であるが、中国、インド、ブラジルといった新興国での需要が拡大しており、特に PM2.5 の汚染が深刻になっている中国での需要が増加している。今後も COPD(慢性閉塞性肺疾患)患者数の増加や新興国での需要拡大を受け、市場は増加していく。

⑥ パルスオキシメーター

【市場規模】 2013 年:102.5 万台、2019 年:132.0 万台(CAGR:4.3%)

手術やベッドサイド用途の他に診療所の簡易検査や肺疾患患者の自宅モニター用として需要が拡大している。ただし、欧米では一定の普及を示しており、大幅な増加までには至っていない。

⑦ 血糖値センサー

【市場規模】 2013 年:5,481.0 万台、2019 年:8,909.0 万台(CAGR:8.4%)

糖尿病患者の増加を背景に安定した市場拡大が続いている。特に中国やインドで糖尿病患者が増加しており、これら地域での需要が拡大している。なお、血糖値センサーは本調査対象 11 品

目の中で 2013 年時点で最も台数規模が大きい市場であり、また CAGR も 8.4%と今後の伸びも期待できる市場となっている。

⑧ AED

【市場規模】 2013 年:110.8 万台、2019 年:160.4 万台(CAGR:6.4%)

法律による設置の環境整備や公共施設での設置義務化が世界的に推進されており、市場の拡大が続いている。ただし、2017 年ごろからアメリカ、欧州、日本で一定の普及が見込まれるため、その伸び率は徐々に鈍化していく。

⑨ CPAP 装置

【市場規模】2013 年:372.0 万台、2019 年:436.0 万台(CAGR:2.7%)

無呼吸症候群の対処治療における唯一の装置であり、2009 年から大きく市場を拡大させてきた。しかし 2012 年には治療を希望する患者に対して普及が進んだため、伸び率は大きく鈍化している。無呼吸症候群は自覚症状が無いケースが多く、潜在需要は高いが、自覚症状の無い患者に対するアプローチは容易でない。このため、今後も大幅な増加は難しい。

⑩ 介護ロボット(移乗介助/移動支援、入浴支援、排泄支援)

【市場規模】 2013 年:0.4 万台、2019 年:3.1 万台(CAGR:38.5%)

センサーと制御、駆動系を有した介護用途向けロボット市場は現在黎明期にある。このため研究段階や実証実験レベルの製品が多数あり、市場ニーズを模索している段階である。今後は機器の低価格化、市場認知度の高まり、製品完成度の向上、などにより市場は増加するものの、海外で本格的な拡大を果たすにはまだ時間が必要である。

⑪ ウェアラブルヘルスマニター

【市場規模】 2013 年:1,808.5 万台、2019 年:1 億 5,171.1 万台(CAGR:42.5%)

身体情報の取得を可能としているウェアラブルヘルスマニターは、現在フィットネス愛好家や可視化の目新しさによるアーリーアダプターの需要が中心である。今後はこういった個人レベルにおける健康管理市場は徐々に飽和市場となるが、企業向け従業員健康リスク管理サービスや介護/見守りサービスの可視化ツールとしての用途が増加し、市場を拡大させていく。

○医療機器向け半導体調査

医療機器一台当たりの半導体搭載金額や、個人向け医療機器半導体搭載金額に関する調査に加え、診断、モニタリング、治療機器、画像診断機器、医療器具向け半導体規模についての追加調査を実施した。

○グローバル家電市場調査

白物・小物家電の地域・国別市場規模推移と予測について、衣住関連、調理関連、空調・給湯関連、パーソナルケア関連に分けた調査を実施した。